

## 令和6年度 ふるさとものづくり支援事業

市町村名	青森県中泊町	
事 業 名	中泊健康茶開発事業	
企 業 等 概 要	企業等の名称	株式会社 竹内組
	代表者氏名	竹内 大介
	所 在 地	青森県北津軽郡中泊町大字芦野字福泊 23 番地
	連 絡 先	0173-57-2705
	U R L	<a href="https://www.takeuchigumi.com">https://www.takeuchigumi.com</a>

令和8年1月現在

### 【事業者概要】

- ・主要事業は建設業で、土木業、解体業をメインとした建設会社である。特に、農業土木や機械土木に強みを持つ。その他、廃棄物処理業、再生可能エネルギー事業も行っている。
- ・主要事業の閑散期に、自社所有の建設機械を有効活用した事業を行おうと考え、農業へ参入。今回開発したお茶、菊芋焼酎、ブルーベリー、りんご、干し餅などを手掛けている。



### 【事業概要】

#### ◇背景・経緯

- ・中泊町は第一次産業が盛んであり、お米が主となっており、お米以外の作物も栽培していくと考えていた。その中で中里地区の在来種であるハトムギ、菊芋、ヨモギを中泊町で飲料の特産品がないことに着目し、3種をブレンドしたお茶を商品開発。

#### ◇開発概要

- ・中里在来のハトムギ、菊芋、ヨモギの農産物に健康向上の付加価値を持たせ、地域ブランドの健康茶を開発するとともに、国立大学法人弘前大学と共同で栄養素、効能についても、データを収集し分析を行う。

### 【成果】

#### ◇地域性・特徴

- ・弘前大学と連携し、試作・栄養分析等を共同で実施。健康に良く、おいしい商品となるよう開発。短命県返上という青森県の課題に沿った商品である。
- ・ティーバッグタイプの3種ブレンドは東北地方でみてもほとんど例がなく、他にはない、全く新しい商品となった。
- ・焙煎方法や粉碎方法には特に苦労しており、乾燥方法や時間、粉碎技術については現在も研究を重ね、より良い商品づくりに努めている。なかでもヨモギは香りや味に独特のクセがあるため、粉碎方法には特に工夫を凝らし、えぐみを和らげることで飲みやすくしている。



加工場



粉碎機



販売の様子

#### ◇商品化・販売先

- ・令和7年3月から販売を開始。現在は中泊町のふるさと納税の返礼品、中泊町特産物直売所ピュアで販売をしている。ピュアでは同じく自社生産している焼酎とのセット販売により売り上げが伸びている。
- ・青森放送のテレビCMも流しており、積極的にPRをしているところである。

#### 【今後の展望】

- ・材料3種の特性がそれぞれ違うことから、焙煎、粉碎以外の工程は手作業で行っている。工程の機械化を進めることで大量生産を可能にし、安定供給が見込めればECサイトでの販売展開を目指す。
- ・より手軽に飲めるよう、ペットボトル化を検討。ティーバッグのお茶とは味が変わってしまうため、より近づけるようにすることが課題。